

がんばろう！岩手 復興支援「いわて生協地産地消フェスタ」

特設会場で地元の生産者を応援

2012年5月19～20日にわたり、いわて生協ベルフ牧野林店で「第3回復興支援いわて生協地産地消フェスタin牧野林」(以下、地産地消フェスタ)が開催されました。主催は、いわて生協と岩手県(盛岡広域振興局、県北広域振興局、沿岸広域振興局)、後援は盛岡市、滝沢村、宮古市です。2年前から開催されるこのイベントは、「地元岩手の商品をみんなで利用して岩手を元気にする」というテーマで、さらに、昨年(2011年)の東日本大震災を経て、「復興支援」という大きな目的が加わりました。

地産地消フェスタは、ベルフ牧野林店の駐車場の特設会場で行なわれました。岩手県全域の商品を販売する「地元銘店ゾーン」と、宮古市、陸前高田市、釜石市、大船渡市、岩泉町、大槌町、山田町、久慈・野田・普代・洋野といった沿岸被災地域からの計28に及ぶ生産者・メーカーなどが商品を販売する「被災地出店ゾーン」のほか、「生鮮直売コーナー」「アイコープ産直真崎わかめ試食供給会」「東日本大震災からの現状の写真展」なども設けられました。

また、会場中央にはステージが設けられ、ステージイベントも数多く実施されました。

20日の11時30分からは、岩手県立宮古高校の吹奏楽部(2～3年生)が演奏を披露。宮古高校の吹奏楽部の顧問で、この日指揮者も務めた加藤忠樹先生は、「今日の曲目は生徒たちが決めました。日常は戻りつつあるけれど、復興はまだ遠い。ただ、少しでも活動を通して楽しい気持ちを取り戻してくれたらと思って指導しています。発表の場はあまりないので、このような催しにご招待いただけるのはありがたい。学校の予算がさまざまな用途にいてしまい、新しい楽器の購入には回せない状態。そんな中でも新入部員は20人入ってくれました」



宮古高校吹奏楽部の演奏。

グレーの指揮者が加藤先生。

地産地消フェスタへの招待は、震災時に宮古高校の生徒が宮古市のマリンコープDORAでボランティアに参加し、その際吹奏楽部員の「予定されていた演奏会が中止になった」という話をいわて生協のスタッフが聞き、「発表の場を用意できないか」という思いから実現したもので、ベルフ牧野林店昨年5月に続いて2度目だそうです(マリンコープDORAでも一度演奏を披露したとのこと)。

昨年よりも多くの生産者やメーカーが出店

宮古高校の演奏の後、13時15分からはチャリティオークションが実施されました。オークション開催にあたって、被災地出店者代表として、青野滝養殖組合組合長の山本泰規さんから被災地の現状報告がありました。

「お待たせしていた真崎わかめが5月1日ようやく収穫できました。例年からすると半月遅れですが、病気にもならず無事育ってくれました。本当はもう少し値段を低くできれば多くの人に食べていただけるのですが……。私が所属している田老町の消防団では9人の犠牲者が出ました。若い者も多く、本当に残念です。1年2カ月がたっても、まだそのままという場所も多くあります。養殖わかめの生産は田老地区の復興の手はじめです。天然わかめやウニ、アワビ、養殖こんぶなどはこれから。ウニやアワビは数が減っているようです。私たちにとっては、2年水揚げがないということは大変な事態です。田老の漁協では組合員に脱退者が何十人も出ています。高齢者が津波の被害を機に離れるのはまだしも、若い人も減ってきている。それは田老地区から宮古市内のほうに移住して、それによって組合員資格を失ってしまうから。どうにかして、田老の人口を保ちたいと思っています。そうした意味でも皆さんの温かいご支援をいただくと本当にありがたいです」

山本組合長のあいさつが終わると、いわて生協理事の反町久美さんより「オークションの収益は復興のための大事な財源となる。ぜひ競っていただければ」というメッセージとともに花束が贈呈されました。オークションはいわて生協・マリンコープDORAの統括店長菅原則夫さんの軽快な司会で、盛況に進められました。

オークションの最中、いわて生活協同組合常務理事店舗事業管掌の阿部慎二さんに話をうかがいました。

「昨年の地産地消フェスタではわかめがなく、ホタテを焼いてもらいました。今年はようやく、わかめを販売できて本当によかったです。田老のわかめに対する組合員さんの反響はものすごく、1年間待ちわびていたことがよく分かりました。沿岸部の生産者、メーカーの出店は約30で、去年より増えました。少しずつ復興したメーカーさんが増えてきているのがうれしいです。日常的に買えるものも、そうでないものもありますが、食品であれば今日食べておいしさを知ってもらい、継続的に利用してもらえたらと思っています」

出店に関する費用は主催者側がサポート。さらにステージでのイベントなど、集客のための取り組みも増強したこともあり、出店者からは感謝の声が届いているようです。さら



かけあしの会の店舗には
さまざまな商品が並んだ。

に、今回は県の振興局も強力にサポートしてくれたといいます。「目指すところは同じなので、良い関係を気づき、今後につなげていきたいです」と阿部さんは話します。

両日ともに好天に恵まれた地産地消フェスタには、約2万人の方が来場し、活況のうちに終わることができました。